

秩父 今宮神社 年賀社報 (令和四年正月号)



年頭のご挨拶

今宮神社 宮司 塩谷 崇之

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
平素は当神社に格別の御尊神と御篤志を賜りまして誠にありがとうございます。

令和四年の「壬寅」（みずのえとら）の年頭にあたり、皆様の隆昌と安寧を心よりお祈り申し上げます。

「壬寅」の「壬」は、十千の九番目で、生命の循環における成熟期にあたり、次の生命を育む準備の時期を表しており、女性が子供を宿す「妊」の一部であることからわかるように、「はらむ」「生まれる」という意味を有しています。他方、十二支の「寅」はもともと「演」が由来といわれ「人の前に立つこと」を表す文字ですが、演と同じ読み「延（えん）」から

「延ばす・成長する」という意味をも併せ持つとされています。この二つを組み合わせた今年の干支「壬寅」は、「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長すること」という縁起のよい干支と考えられます。

また、陰陽五行説によれば、「壬（みずのえ 水の兄）」は、「癸（みずのと 水の弟 陰）」と対となって「水の陽」を表し、他方「寅」は「木の陽」に分類されます。「水」が「木」を育み「木」が「水」を導くとされる今宮神社が、新たな陽光に照らされることを予感させます。

さて、昨年は、平成二十三年に小職が今宮神社宮司を拝命してから、十年の節目の年となりました。就任後、皆様のご支援とご協力をもつて、龍神池周辺整備事業にはじまり、平成二十七年「稲荷社」、平成三十一年「新社殿」、令和二年「天満宮」の御造営を行い、御神域の整備

と社運隆昌に取り組んできましたが、一昨年来、世界中がコロナ禍に見舞われ、辛苦の年となりました。秩父地方においても、秩父夜祭や川瀬祭などの伝統的な祭礼行事が中止や縮小に追い込まれるなか、当社においても、既に二年間にわたり、恒例の祭典・神事を厳修しつつも、感染拡大防止の見地より、遠方からの崇敬者の参列をご遠慮いただくなど祭典の規模を縮小し、また奉納演奏や玉串拝礼、直会を省略するなどの対応を余儀なくされております。

このような中でも、多くの氏子崇敬者の方々皆様が当社への崇敬の念を忘れず、神仏とのご縁を保ち続けることができたことを大変嬉しくまた有り難いことと感じております。「密」を避け、人との「間合い」を保つことを余儀なくされる状況下だからこそ、人と人との「絆」を、そして神仏との「絆」を大切にしたいものです。

新型コロナウイルスの流行は、まだまだ予断を許しませんが、当社においても万全の感染対策を整えご参拝の皆様をお迎えする対策を講じております。皆様方にはぜひお運びいただき、神仏への祈りを共有して頂ければ誠に幸甚に存じます。

【龍神木の子育てふくろう】

今宮神社の千年樗の樹洞に、毎年フクロウが飛来して子育てをしていることをご存じでしょうか。初夏から初秋にかけて、夜闇の中から、ホーホーという鳴き声を聞かれた方も多いと思います。



天満宮



稲荷社

今宮神社のフクロウは「アオバズク」という種類の渡り鳥で、四月末に南国からわたってきて、千年樗に巣を作り、子どもを産み育てて、秋にはまた南国に帰ってゆきます。昨年も二羽の雛鳥が誕生し、樗の葉が色づき始めるころまた巣立っていきました。昨年二度にわたり読売新聞に掲載され、その愛らしい姿が注目を集めました。



【奉納巨大絵馬】

秩父第二中学校の美術部の生徒さんたちから、今年の干支「壬寅」に因んで、力強い虎を描いた立派な巨大絵馬をご奉納いただきました。

社殿の右手に展示しておりますので、ぜひご覧にいらしてください。



【春の祭礼行事について】

・立春祭（二月四日）

秩父総社とされる秩父神社では、毎年二月三日「節分追儺祭」が盛大に斎行されますが、当日は翌二月四日に「立春祭」を執り行っております。立春は、暦の上で春が始まる日であり、「二十四節気」の最初の節気です。二十四節気において、各季節は六つの節気で構成されており、春は「立春」「雨水」「啓蟄」「春分」「清明」「穀雨」によって成り立っています。立春は「節分」の翌日、旧暦において新しい一年が始まる日です。



当社では、立春を迎えるにあたり、神職・崇敬者により新年一月五日より三十日間互に「寒行」に入り、二月三日（節分）を以って満行を迎え、二月四日の「立春祭」におきまして皆様のご安泰・ご開運をご祈願いたします。

なお、立春祭にあわせて頒布される『立春大吉』の護符は、春の到来を喜び、災厄と招福を願うもの。当社では、数多の神々を産み給うた伊邪那岐（イザナギ）・伊邪那美（イザナミ）の二神の力をもって春を招き入れます。

この護符は、左右対称で、表から見ても裏から見ても『立春大吉』と読めることから、この御札を貼っておくと、邪鬼が中に入ってきて、ふと振り返ると同じように『立春大吉』と書いてあるので、逆戻りして出て行き、一年間を平穩無事に過ごせるようになるという謂われがございます。

・龍神祭・水分祭（四月四日）

毎年四月四日、今宮神社において斎行される『龍神祭』は、今宮神社の霊池に祀られた八大龍王神のご神徳に感謝するお祭です。明治元年の「神仏分離令」以来中断していましたが、平成四年に百三十年ぶりに復活しました。毎年四月四日午前に、龍神様を慕われる多くの氏子・崇敬者らの参列のもと、盛大に執りおこなわれています。例年、ご神前にて、巫女による舞や奉納演奏などが献上され、八大龍王神のご神徳への感謝とともに、世の中の安寧と五穀豊穡、氏子・崇敬者・関係者らの無病息災などを祈ります。また、同日の午後には、秩父神社でおこなわれる御田植神事に先立ち、今宮神社本殿におい

水の恵みに感謝する龍神祭

悪しきを退散させる力

秩父今宮神社

て、龍神池の御神水を授与する『水分（みくまり）神事』が斎行されます。秩父神社から神官・伶人、神部（農業の代表者）たちからなる御神幸行列が当社を訪れ、「水乞い」を行います。

山に鎮まる山の神が、春に里へ下って人々に豊かな稔りをもたらしたあと、冬のはじめに再び山に帰ることを象徴するもので、古代日本の祭祀形態を今日に伝えるものであります。

【今年度の行事予定】

- ・ 一月一日 歳旦祭
- ・ 二月四日 立春祭
- ・ 三月二十日頃 中町三社祭
- ・ 四月四日 龍神祭・水分祭
- ・ 六月五日 役尊神祭
- ・ 六月三十日 夏越大祓
- ・ 九月二十八日 例大祭
- ・ 十二月三十一日 年越大祓



例祭(9/28) 水分祭(4/4) 中町三社祭(3/21)

豊作と暮らしの安心祈る

秩父神社で伝統の御田植神事

埼玉県秩父市



秩父神社の境内で田打ちの所作をする神部たち。4月4日、埼玉県秩父市。



秩父神社の境内で田打ちの所作をする神部たち。4月4日、埼玉県秩父市。

秩父神社の境内で田打ちの所作をする神部たち。4月4日、埼玉県秩父市。

秩父神社の境内で田打ちの所作をする神部たち。4月4日、埼玉県秩父市。